

談話室

20 世紀ナシと覚之助おじいさん

石井賢二

平成 12 年 9 月 3 日、JR 松戸駅西口デッキで鳥取県主催「20 世紀梨のお里帰り」のイベントが開かれ、鳥取産の 20 世紀ナシ 2,000 個を訪れた人にプレゼントしたり、皮剥き競争やナシのシャーベット早食いなどが催されて鳥取と松戸の交流を深めた。知事も来られた。また 13 年 4 月 2 日鳥取・倉吉市に「鳥取 20 世紀梨記念館」がオープンし、「松戸覚之助氏感謝碑」の除幕式が行われ、市長ら関係者 92 人が参加した。

20 世紀ナシが松戸に里帰りという聞いて怪訝な顔をした人が多かった。20 世紀ナシといえば鳥取と思っている人が多いからで、それがなぜ里帰りかと不審に思っても無理もない。松戸で 20 世紀ナシを栽培する人はなく千葉県でも栽培は減った。20 世紀ナシよりも甘い新水、幸水、豊水（総称して 3 水という）が店頭を圧倒しているし、20 世紀ナシは値段が高いので買う人は多くない。若い層は 20 世紀の名は知っていても食べたことがなく、松戸原産と知る人はわずかだ。私は 20 世紀ナシに縁のある一人であるが時代の趨勢で仕方ないと思っている。

1 20 世紀ナシ出生の謎

20 世紀ナシを見つけたのは松戸市（旧八柱村）大橋・松戸覚之助であることは多くの文献にあるが、ここでは市井に紹介されていない部分を述べる。

覚之助が発見したという苗は、石井佐平の家の庭先にあった〈ごみ溜め〉といわれる落葉や野菜屑を掃き溜めておく場所に、実生苗が 2 本生えていたという。覚之助は「これ、貰っていくよ」と引き抜き自園に植えたのが始まりである。このごみ溜めはこんもりとした形で私もよく乗って遊んだ。

佐平の家は私の祖父喜平治の実家で、喜平治は弟佐平に家督を譲って新しく家を興した。喜平治の長男喜一は私の父だ。佐平の家は大きな構えで庭先には深い釣瓶井戸があった。今もある。

覚之助は佐平の庭から引き抜いた苗を覚之助の父伊左衛門の興したナシ園に植えたというが、自宅の奥庭に植

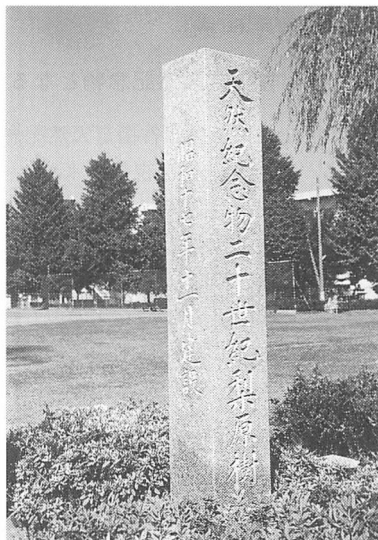
えて毎日観察したとも聞く。覚之助が目をつけた苗はほかの赤ナシとは違ったところがあり、歩いて 25 分ほどかかる自園に植えるよりも、いつでも見られる屋敷の庭の方が自然の理だ。

ナシは実生から 3 年後には結実するが、覚之助が移植した苗はなかなか結実せず、結実しても黒斑病に懼り満足なものはできなかったが、明治 31（1899）年に初めて予期したような実が得られた。

覚之助が佐平の掃き溜めから実生苗を買っていったのは 13 才のことだ。明治 21（1888）年に当たる。伊左衛門没後覚之助はナシ園を継ぎ、屋敷の長屋門には分厚い縦形の大きな木札に「錦果園」と墨書して吊り下げた。

20 世紀と命名されたのは明治 37（1904）年のことであるが、それまでは天慶とか新大白と呼ばれていた。当時は日露戦争の勝利で湧いていたこともあって、凱旋と名付けて苗を販売する業者がいて、明治 43（1910）年第 4 回園芸大会で恩田鐵弥は「20 世紀を凱旋などと称するのは困る」と言った。20 世紀ナシ苗が初めて広告に載ったのは興農雑誌 1 月号（明治 38 年）で、苗の値段が 1 本 15 銭、赤ナシの長十郎は 4 銭であった。

20 世紀という名前は当時の世相にマッチし、爆発的人気を博して各地に広まっていた。



Remembrance on the Japanese Pear “Nijusseiki” and Breeder Mr. Kakunosuke Matsudo. By Kenji Ism

（キーワード：黒斑病、袋掛け、天然記念物、ボルドー液）

II 覚之助のこと

覚之助のことを私たちは「おじいさん、おじいさん」と呼んでいたが、今思うと覚之助はまだ 50 歳台だった。覚之助は四角い顔でチョビ髭を生やし、いつも黒っぽい着物で長火鉢を前に座っていて、書き物を見るときは丸い黒縁メガネを掛け、難しい顔付きをしていた。菊池寛に似た風貌を思い出す。

「おう、賢坊こっち来い。いいものを見せてやる」と言って一枚の葉書を見せたことがある。それは赤い字の混った朝鮮(当時)から届いたものだった。「見ろ、これだけで届いたんだぞ」と言うので、よく見たら「大日本帝国錦果園」とだけ書いてあった。苗の注文書であった。覚之助の得意気な顔はまるで普段の顔つきとは大違いであった。「おじいさん、たいしたものだねえ」と言うのと「そうよ、これだけで来るんだからなあ」と大ニコニコであった。

覚之助には二人の息子がいて長男は鼎、二男は亘といった。この兄弟は大変仲が悪く衝突ばかりしていた。鼎は二代目覚之助を襲名してナシ園を継ぎ、亘は製袋業を起したが二人がじっくりいったことは晩年までなかった。覚之助の心配ごとはこの兄弟仲の悪さと黒斑病のことではなかったかと思われる。

「賢坊、汽車に乗るときはな、二等車に乗れ。三等車には乗るなよ、三等車の人の話は屁みたいなものだ。二等車の人の話は為になる」とよく言った。二等車はいまのグリーン車のことだ。

覚之助が父と座敷で話し中、急に父の膝に凭れかかった。父は驚いて「おじいさん!」と叫んだが一言も発することなく逝った。昭和 9 年 6 月 2 日朝のことである。脳溢血であった。享年 60 歳。

III 文部省指定天然記念物となる

翌 10 年、20 世紀ナシを文部省指定天然記念物とするため、植物学者三好学ら一行が視察に来た。同 10 年 12 月 24 日文部省告示 427 号で 20 世紀ナシの原木が天然記念物指定となった。覚之助はこれを知らずに亡くなったことになる。「おじいさんはもう少し生きていればよかったのに、見せたかった」と呟いた父の声も残る。天然記念物になったので原木の周囲に木柵をめぐるせ木碑が建った。同 17 年木碑は石碑に建て替えられた。

IV 異説 20 世紀ナシの出生

20 世紀ナシが佐平の掃き溜めから出た説は疑問を残したままだ。なぜ掃き溜めに実生苗が出たのか、誰が種

子を捨てたのか、赤ナシばかりの当時になぜ青ナシが誕生したのか不明の点ばかりである。方々から研究者や学者が来ては襖の下張りまで剥がしていったが科学的根拠となるものは見つからなかった。鳥が運んで来たのではないかという人もいたが興趣が殺されるだけだ。ここにごみ溜めから出たのではないという説がある。松戸市上本郷・本福寺佐藤晃住職の主張は次のとおりである。覚之助の祖父伊左衛門の二男兼吉が市川市国府台の米本家の養子になり、喜平治、佐平(前出)、はなの三人を設けたのに養家とソリが合わず、松戸家に戻ることとなり一時葛飾区上千葉の吉田家(村長、ナシ栽培)に身を寄せた。後に佐平が結婚のとき吉田家からお祝いとしてナシ苗 2 本贈られた。これを覚之助が貰い受けたのだという。佐藤住職は過去帳まで調べたが肝心の 20 世紀ナシの苗がなぜ吉田家にあったのか、苗があれば成本もあったはずなのにその部分の記述がなく、時経列的にも合わない。疑問が残る積然としない。

後年市議になっていた父に尋ねたら「議会でもたまたまナシの話が出る、だがあまり素性を探るのはどうか。曖昧なところでいいんだ」と言った。大江健三郎は「日本は曖昧だ、ファージード」と言ったが、20 世紀ナシの出生もファージードでいいのかもしれない。

V 20 世紀ナシ原木の最後

昭和 20 年 3 月の空襲で原木の片側が焙られ、樹勢は急に衰えたので同年花芽だけを除く葉芽剪定をしてみたが同 22 年枯死した。いまは幹の一部が市立博物館に、石碑は原木のあった近くに移し替えられた。同 31 年文部省指定解除。

出生の不明なのは山梨のブドウ「甲州」も同様である。20 世紀ナシが実生の突然変異であっても、甲州が経歴不明であってもその評価は変わることはない。

20 世紀ナシほど上品で見栄えるナシはない。花芽の着きがよく豊産で枝張りもよく食味のよさは格別だ。しかし自家不和合性があり、致命的欠陥は黒斑病に極めて弱いことだ。小袋、大袋と 2 度袋掛けしボルドー液を 3~4 日ごとに散布しなければならぬ。私が植物病理専攻を志したのはこの黒斑病防除が潜在的にあった。

おわりに

司馬遼太郎は「20 世紀梨は鳥取県が発祥か」と調べ、松戸・大橋が原産であることを知った(週間朝日 1985 年 8 月 30 日号)のであるが、「松戸が東京という大消費地の近郷だけに、商品経済的な鋭さがあったのに対し、鳥取の場合は古風な志士気質があった一中略一発見が千

葉県であることはまぎれもないことながら、それを安定して成立させたのが奈良県であり、ついでに大規模にかつ科学的に基礎づくりしたのが鳥取県」と述べている。

20 世紀ナシはまさに 20 世紀をナシの王様として君臨

して来たが、21 世紀に入った現在、3 水その他の品種に DNA を渡してボタンタッチができたことになる。20 世紀ナシに対して心から慰労の念を捧げたい。

好評の植物保護ライブラリー

各冊とも B6 判 定価 1,326 円税込み (本体 1,263 円)

イネいもち病を探る

口絵 2 頁 + 本文 174 頁 小野小三郎 著 (送料 240 円)

作物の病気を防ぐくすりの話

本文 121 頁 上杉 康彦 著 (送料 240 円)

虫たちと不思議な匂いの世界

本文 187 頁 玉木 佳男 著 (送料 240 円)

日本ローカル昆虫記

本文 220 頁 今村 和夫 著 (送料 310 円)

ミクロの世界に魅せられて

本文 221 頁 後藤 正夫 著 (送料 310 円)

茶の効用と虫の害

本文 166 頁 刑部 勝 著 (送料 240 円)

リンゴ害虫の今昔

本文 270 頁 奥 俊夫 著 (送料 310 円)

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03) 3944-1561 (代) FAX (03) 3944-2103 メール: order@jppa.or.jp

好評の「植物防疫講座」第三版

同書編集委員会編 全 3 冊 B5 判

病 害 編

本文 395 頁

定価 3,675 円税込み (本体 3,500 円)

送料 380 円

害虫・有害動物編

本文 418 頁

定価 3,990 円税込み (本体 3,800 円)

送料 380 円

雑草・農薬・行政編

本文 528 頁

定価 4,620 円税込み (本体 4,400 円)

送料 450 円

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03) 3944-1561 (代) FAX (03) 3944-2103 メール: order@jppa.or.jp

好評の病虫害見分け方リーフレット

B5 判 8 頁カラー

アザミウマの見分け方

主要 9 種を収録

定価 315 円税込 (本体 300 円)

ハダニ類の見分け方

主要 12 種を収録

定価 315 円税込 (本体 300 円)

フシダニ類の見分け方

主要 16 種を収録

定価 315 円税込 (本体 300 円)

ホコリダニ・コナダニ類の見分け方

主要 8 種を収録

定価 315 円税込 (本体 300 円)

1 部送料 120 円, 50 部以上のご注文は送料サービス, 200 部以上は 1 割引, 500 部以上は 2 割引

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03) 3944-1561 (代) FAX (03) 3944-2103 メール: order@jppa.or.jp